

5. 調査、体験に必要な技能習得をめざした総合学習

— 「お年寄りは何を考えているか」を通して —

高橋 伸 二

1. 講座の基盤

(1) 講座設定の理由

第1学年における総合学習のねらいは、第一に総合学習に必要なスキルの習得である。手紙の書き方、電話のかけ方、インタビューの仕方のスキルは対人活動を重要視する総合学習においては確実に身につけておかなければならないものである。これらの学習はこれまでも第2、3学年の社会科での調査学習の技術として部分的に取り上げられてはいたが、総合学習においては第1学年で指導することとなった。

総合学習のテーマとして第1学年では「福祉」が取り上げられている。福祉教育は総合学習のスキル習得の場としてだけでなく、教育課程上は道徳教育や特別活動とも関連が深い。また来たる21世紀は老人福祉の問題がクローズアップされることが予想される。この学習を通して、スキルの習得とともに、福祉に対する認識を少しでも深めることが期待される。

上記のような条件を満たす講座として「お年寄りは何を考えているか」を開設した。生徒の家庭も核家族化が進んでおり、常日頃、祖父母等の老人と接する機会は少なく、盆正月等の特別の機会がないと老人と話をすることはないというのが多くの生徒の実状である。また、家族に祖父母がいてもあまりに身近過ぎて、本音で話しがしづらいという生徒もいる。そこで、ふだんあまりその考えを知ることのできないお年寄りへのインタビューを通して、スキルを習得させるとともに、お年寄りの考え方にふれさせ、福祉的な視点が持てるようにとこの講座を開設した。

(2) 学習活動の工夫

・ガイドブックを有効に活用したスキルの習得
スキルの習得には適切な内容と、効果的な指導過程が必要である。本校では総合学習用に作成したガイドブックを使用して指導にあたった。

2. 目 標

(スキルの習得)

手紙の書き方、電話のかけ方、インタビューの仕方を知る

(複眼的視点)

インタビュー項目決定の際の討議から自分とは違う友達の考えがあることに気づく

(福祉の理解)

福祉の必要性や意義について体験を通して考えを深める

(共生的視点)

インタビューの場面で自分の予想と対比させて、お年寄りの考えを知る

3. 体験を生かした学習の実際

〈調査、体験に必要な技能(スキル)の習得〉

スキルとしては電話のかけ方、インタビューの仕方、手紙の書き方を扱った。インタビューは初めての経験だとしても、電話や手紙は日常生活でも利用することは多いはずであるが、そのマナーをきちんと身につけているとは言いがたい。総合学習を行う上で気持ちよく相手と接するためにはこれらのマナーは是非とも身につけておいてほしいことである。

この指導は電話、手紙、インタビューを学級担任が2時間かけて指導した。その際には総合学習のガイドブックを利用した(一部分を85ページに資料として載せた)。次のような実習を加えることによって効果的な指導ができた。

(1) 次の電話の会話文の中で、まちがっているところに線を引こう。

① はじめてかける相手に対して

掛け手：もしもし、山田といますが、川田先生はおられますか。

受け手：いらっしゃいますが、どのようなご用件ですか。

② 学校を休むときの家族の電話

風邪を引きましたからお休みさせていただきます。

(2) 実際に友達どおしや先生との間で電話をかける練習をしてみよう。

場面設定

調査内容「松江市内のボランティア活動について調べたい。」

調 査 先「松江市内ボランティアセンターの〇〇さん」

(3) 実際に調査を依頼する手紙を書いてみよう。

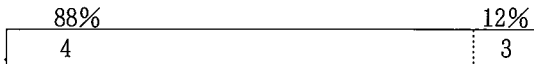
これらの学習の後、電話を使ったお年寄りとのインタビューの日時の打ち合わせ、お年寄りを訪問してのインタビュー、はがきによる礼状書きを行った。

4. 学習の成果と課題

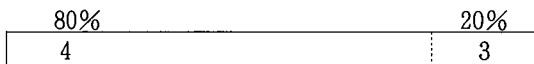
(1) スキルの習得について

① スキル学習後の自己評価（自己評価（4段階）から）

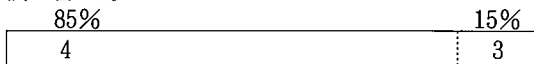
電話のかけ方のマナーがわかる



インタビューの方法がわかる



手紙の書き方のマナーがわかる



実際の学習や生活に生かす見通しをもつ



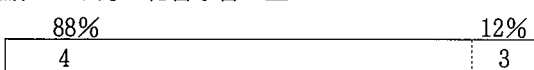
（生徒の感想の一部）

- 電話のかけ方を習って、いままでかけた電話の話し方を反省した。
- インタビューの仕方や、電話の仕方など、今まで知らなかった方法がわかった。
- 手紙を書く時に、必ず書かないといけないことなど、知らなかったことがわかったのでよかった。この次、授業の中で手紙が必要なときだけでなく、日常生活にも活用したいと思った。
- 手紙の書き方は、思った以上にむずかしかった。だけど、これでだいたいわかったので、これからは上手に手紙が書けるようにしたい。

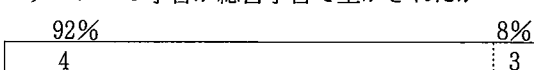
今回の指導で正しいマナーを理解できたようである。感想に一部の生徒のものを取り上げたが、はじめて正しいマナーを知った満足感がうかがえる。このような系統的なマナーの指導は総合学習の有無に関わらずどこかで必要であろう。

② 実際の活動後の自己評価（4段階）

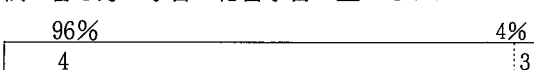
電話のかけ方は総合学習で生かされたか



インタビューの学習が総合学習で生かされたか



手紙の書き方の学習が総合学習で生かされたか



上記のように今回の総合学習におけるスキルの学習は実際の場面でも大いに生かされていることがわかる。

(2) 福祉教育について

（生徒の感想の一部）

- お年寄りはぼくたちと望んでいることが違うと思ったけど、実際にはぼくたちと同じことを望み、一人暮らしはとてもさびしがっているということがわかった。
- 老人や障害者を自分とは別の人とは思わないということがわかった。
- 体験を通して、はじめてお年寄りの本音を知った気がする。普段私たちの気づかないところをよく見つめ、考えていると思った。
- 老人の方への接し方が変わった。
- 老人に対してもっとやさしく見てあげれると思った。
- お年寄りの方が今の時代をしっかりと見つめてはきりと自分の考えを言われたので、お年寄りの方を今まで以上に大切にしていこうとおもった。
- 今まで私は「障害者」や「お年寄り」と聞くといやなイメージを持っていました。でも実際にお年寄りの方と話をしてみたら、イメージと全然違って、明るくやさしく、いやなところなんてまったくありませんでした。何にでもいやな方向へ考えてはいけなかったと思いました。
- お年寄りや障害者を差別してはいけないと口で言っているけど、心の中では差別していたからこういうのはきらいだったけど、そんなことを考えたりする人が多いからたくさんの人が傷ついていて、それに気づいてそんな考えをなくすことができた。
- お年寄りの人にどのように接していいのか自分たちで勝手に考えをまとめて、接し方を決めてしまっていたが、実際はもっと人とのふれあいを求めておられることがわかった。
- 今までお年寄りはお年寄り、子供は子供という考えが結構強かったと思います。しかし、インタビューをしてそういう差別みたいなマイナス面の考えがなくなりました。おじいさんたちは友達のように話してくれ、僕たちもそれに答えたりもしました。人間の関係に年の差なんか関係ないと思った。

今回の学習において多くの生徒が自分の予想とは違ったお年寄りの考えを知り、老人との接し方に対する認識を深めたことが感想からうかがうことができる。福祉教育の第一歩として今回の学習は大きな意味を持つと思われる。今後は老人を取り巻く地域社会、行政など福祉の現実を学習することが必要になってこよう。

（たかはし しんじ・理科）

第4時 マナーを学ぼうⅡ

C. 手紙での問い合わせ・依頼のしかた

用意する物

- ・便せん（絵柄などのない物が無難） ・封筒（白で、2重の物）
- ・ペン（ボールペン、万年筆）
- ・相手の方の住所（郵便番号）、名前
- ・用件のメモ（箇条書き）

用件をはっきりさせる

手紙の用件が、「問い合わせ」なのか、「依頼」なのか、はっきりさせておく。

問い合わせー（例、『・・・について教えてください』）

依頼ー（例、『・・・を見せていただきにうかがいたいのですが』）

ことばづかいについて

- ◇ 自分をいうとき 「わたし」を原則に。
- ◇ 相手の呼びかた 「あなたが」「先生が」「そちらの〇〇園」「貴社の」など。

- 尊敬語・・・「ごつごうはいかがですか」
- 謙譲（けんじょう）語・・・「そちらへまいります」「うかがいます」
- ていねい語・・・「です」「ます」体

しかし、これらも度を越すと、おかしなことばづかいになるので、注意。

例、「おっしゃられた」（『おっしゃった』でよい）、「ご研究された」（『研究された』でよい）

大切なのは、相手の方を思い浮かべて、失礼にならないように素直に書くこと。

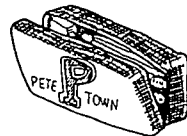
◆ 友だちことばにならないように

こんなことばは、軽薄な印象を与え、ときには失礼！

「うん」（『はい』）、「やっぱ（し）」（『やはり』）、「まあまあです」（『まずまずです』）、「どちらでもいいです」（『どちらでもかまいません』）

◆ 中学生には不似合いなことば

- × 「わたしは、まことにいたらない中学生ですが・・・」
- × 「学問もなく経験の浅い人間です。」
- × 「この方面のエキスパートでいらっしゃる先生のお考えをお教えいただくこと・・・」
- × 「乱筆乱文、お許してください」



手紙の例文（依頼文）

拝啓 梅雨明けの待たれるこのごろです。

さて、突然、お手紙を差し上げまして失礼ですが、わたしは島根大学教育学部附属中学校の2年生の〇〇〇〇といます。

わたしの学校では今、総合学習という学習をしています。これはひとりひとりが自分なりのテーマをもって調査や実際の体験をもとに研究をするものです。わたしは以前から知りたと思っていた松江の福祉の現況について調べることにしました。

そこで、たいへん勝手なお願いですが、そちらの〇〇ホームを訪ねさせてはいただけませんか。そちらのホームの様子を見せていただいて、わたしなりに福祉についてどのように取り組むかを考えてみたいと思っています。

訪問のお許しをいただきたくお願いします。

わたしのほかにも今、8人が訪問を希望しています。

訪問日は、夏休みでしたら、平日を希望します。（できましたら、▽月△△日を希望します。）時間は、そちらのつごうのいい時間に合わせたいと思います。

ご返事は、同封の用紙でお願いします。

また、封筒は同封の返信用封筒をお使いくださいませ。

たいへん勝手なお願いをしますすみませんが、よろしくお願いします。ご返事をお待ちしています。

敬具

▼月△△日

〇〇〇〇
□ □ 老人ホーム 園長様

※ 相手の方は忙しいという前提で考える。

そこで、◎返事がマルなどで書ける用紙を同封したい。

◎返信用封筒を同封しておきたい。（もちろん、切手をはって。）

※ 横書きでも、たて書きでも、どちらでも。

※ 誤字のないように。自信のない漢字は、辞書を引くこと。

常用漢字は、できるだけ漢字で書きたい。常用漢字外は、無理に使わないほうがよい。

※ 字はていねいに。うまくなくても、読みやすい字で。

※ 封筒の表と裏の書き方は、国語便覧などを参考に。

ワーク5. 実際に調査を依頼する手紙を書いてみよう。

